

第3章

計量テキスト分析を利用した自由記述回答の整理と概観

1. 整理の目的

卒業生調査では、Q28「あなたが本学での学びから得た知識や技能などは、卒業後、どのような形で活かされていますか。すでにお答えいただいたこと以外で、思いあたることがあればご自由にお書きください。」として、過年度実施の2回と同様に自由記述欄を設けている。本章では、この設問への回答から、本学での学びが卒業後にどのように活用されているかを検討することを目的とする。

2. 整理の方法

整理にあたっては、昨年度の集計・分析報告書と同様に「テキスト型データを統計的に分析するためのソフトウェア」であるKH Coderを用いながら、コメント1つ1つについてソフトウェアと人間による確認を両方行うことで、網羅性を担保しつつ意味内容の確認まで行った。(方法の詳細は、章末「自由記述回答内容の整理手順」を参照)

3. 結果

3-1. コーディングの実施と結果

平成30年度実施の本調査では、39件の自由記述回答が得られた。これらについて、昨年度の集計・分析に用いたコーディング・ルールに、本年度の回答内容に即して対象の単語を一部追加したもの(表1(次ページ))を用いて網羅的なコーディングを実施した。また、分類するコード名に、本年度の回答内容に即して新たに「IT・データサイエンス」を追加している。

このコーディングの後、分析者によるコーディング結果の確認を行った。確認の結果、コーディング・ルールの対象の単語は含まれていたが、内容がコードの定義に添わないと判断した場合はコーディングを外し、反対に対象の単語は含まれなくてもコードの定義に合致する内容であった場合はコーディングを割り振った。また、並行して、各コードについて、ポジティブな(活用できている)内容か、ネガティブな(活用できていない)内容か、その他の意見や提案であるかについて、分析者が判断を行った(表2(次ページ))。

表1 コーディング・ルール

コード名	コードの定義	対象の単語
知識	専門、一般教養かを問わず、大学で得た知識に言及した内容	知識、教養、素養、専門、専攻、講義
理解・思考力	大学での活動中に学んだものごとの理解や整理、レポート等に表現することまでの能力に言及した内容	書き方、とらえ方、論理、思考、見方、方法
態度・姿勢	大学での活動中に学んだものごとに対する態度や姿勢、価値観に関することに言及した内容	柔軟性、価値観、積極性、心掛け、目標、姿勢、考え方
対人関係スキル	大学での活動中に学んだ他者とのコミュニケーションに関するスキルに言及した内容	コミュニケーション、関わり方、プレゼンテーション、プレゼン、発表、人前、協力、対人、協調
語学	言語に関わらず、大学で学んだ外国語に言及した内容	英語、フランス語、ドイツ語、語学、外国語
IT・データサイエンス	PC関連、プログラミング、統計学などの情報処理に関するスキルに言及した内容	Word、Excel、プログラミング、HTML、情報処理、統計学
資格	在学中に取得した資格に関することに言及した内容	資格、簿記、学芸員、教員
人間関係	大学で得た人間関係に関する内容	人間関係、交友、繋がり、つながり、友人、仲間
経験	特に知識やスキル、能力等に言及せず、大学での経験そのもののみ言及した内容を含む回答	経験
その他	(上記のコーディングにかからない内容について言及している場合、筆者がコーディングを行った)	—

表2 コーディングの最終結果

	知識	理解・思考力	態度・姿勢	対人関係スキル	語学	IT・データサイエンス	資格	人間関係	経験	その他
活用している	9	7	9	11	2	5	1	4	4	0
活用していない	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(意見・提案)	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	13	7	9	11	2	5	2	4	4	1

※ 上記のコードが何もつかなかった回答=2件

3-2. 各コードと活用のされ方について

3-1. に述べたように、コーディングの後、各々の回答がそのコードについてポジティブな内容（卒業後に活用された）かネガティブな内容（卒業後に活用されなかった）かを個別に判断した。本節では各コード別に具体的にどのような内容が含まれているかや、活用のされ方についてみていく。

「知識」コード

「知識」コードは、専門分野や基礎教養等に関わらず在学中に学んだ知識について言及している 13 件（全体の 33.3%）の回答に割り振られた。

卒業後に活かされているとする回答（9 件、「知識」コードの 69.2%）のうち、直接的に活かされている具体例としては、まず以下のように専門分野の授業での知識や卒業論文のために調べた内容がその後の生活や業務に活かされているという回答が見受けられた。

「一社会人として一般的な物事の常識や知識に加え、日本政治の歴史や仕組みだけでなく海外の政治体制を学ぶことで世界情勢などが気になるようになり選挙や政治情勢の勉強などに意欲的に取り組むようになった。」（政治学科）

「ゼミで卒業論文を書くにあたって調べたことは今の業務にも関わることもあり、生かされていると感ずますし、入社試験においても大いに役立ちました。」（政治学科）

また、知識は仕事上では直接活かされていないとも、以下のように他者とコミュニケーションをとる際の教養として活かされていることも見受けられた。このようなコメントは、卒業後の生活で活用している例とみなした。

「「教養」という点で、お客様とお話する際になどに役立っています。具体的にこの科目が！というよりは、学んだ知識全般が自分が話したりものごとを説明したりするうえでの土台となっている印象です。たまたま同じ学部出身の方がお客様としていらっしゃり、話が弾むといったこともありました。」（日本語日本文学科）

これと同様に、自分の人生の豊かさにつながっているというコメントが見受けられ、このようなコメントも卒業後の生活に活かされている例とみなした。

「仕事上特に活かされていると感じる時はありませんが、大学で学んだ教養は人生を奥深く素晴らしいものをしてれています。」（史学科）

逆に、「知識」が卒業後に活用されていないというコメントは、3 件（「知識」コードの 23.1%）であった。具体的には、以下のように他の能力等と比較すると「知識」は活かしていないことを示すコメントが見受けられた。

「通常の講義で得た知識は現在ほとんど活かせていない。演習（ゼミ）を通して習得した資料のまとめ方や情報収集の方法は社会人になり、経験の無かった仕事や調査を任せられた際に役に立っている。」（経済学科）

「化学の勉強そのものが直接つながることはありませんが数値を処理する能力はやくにたっています。」（化学科）

その他、「知識」に関する意見としては、以下のように学習内容に関するコメントが見受けられた。

「経済や金融、法律など、労働や生活に必要な社会の基礎的な仕組みをもっと実務に面した形で勉強したかった。」(心理学科)

「理解・思考力」コード

「理解・思考力」コードは、ものごとに対する理解の仕方や捉え方、また論理的な思考力に関して言及している8件(全体の20.5%)の回答に割り振られ、全件が卒業後に活かされているとする回答であった。これらの回答は、以下の具体例のように、在学中の授業や演習に取り組む中で身につけた理解力・思考力が、卒業後の仕事や生活において活かされているという内容であった。

「論理的思考力や批判的に物事を見る力、分析能力や自分の考えを他者に伝える力は、哲学科の授業などを通して身に付けることができた。ただ、より意欲的、積極的に学問に臨むべきだったという後悔は大いにある。」(哲学科)

「態度・姿勢」コード

「態度・姿勢」コードは、ものごとに対する態度や姿勢、また、価値観に関することに言及している8件(全体の20.5%)の回答に割り振られた。全回答が卒業後に活かされているとする内容であった。これらの回答は、以下のように、自ら学んだり挑戦したりする姿勢や、余裕を大切にすることが仕事や周囲とのコミュニケーションに役立っているという内容であった。

「わからないことに直面するたびに、勉強し解決していく姿勢を身につけたことが、仕事においても役立っている。」(法学科)

「[自発的にチャレンジすることで、自分のモノとして経験が価値を持つということ]に気づけたことは今の仕事に活かしている。困難を乗り越えるための自分なりのパターンを見つけられたということ。」(日本語日本文学科)

「学校全体がおおらかでゆとりある雰囲気であり、余裕を持つことの大切さを身に着けた。そして、この余裕さが他者にとっては心地よいのか、気軽にいろんなことを相談しやすいようであり、結果として多彩なコミュニケーションを取る下地となっているように思う。社会人始めの下っ端の時は「ハングリーさに欠ける」などと指摘を受けたこともあったが、歳をとり後輩や部下を持つにつれて、何でも気兼ねなく話せる(と相手に思ってもらえる)ことのアドバンテージを感じる方が多くなり、大いに助けられている。」(法学科)

「対人関係スキル」コード

「対人関係スキル」コードは、他者とのコミュニケーションに関するスキル等に言及している11件(全体の28.2%)の回答に割り振られた。ここでのコミュニケーションには、発表やプレゼンテーションも含まれる。全件が学んだ事柄が卒業後に活かされているとする回答で、以下のようにゼミや課外活動を

通じて身についた力が、卒業後の仕事を進めるうえで役に立っているという内容がみられた。

「レポートやゼミの演習発表などで、自分自身の意見を伝える機会が多いことは、私が窓口営業でお客様に商品を勧めたり、クレーム対応をする際に、お客様に企業としての対応を納得して頂くことに役立ちました。これは、どのような企業で働く上でも、人に物を円滑に、かつ的確に伝え、納得してもらう能力として、非常に重要であるかと思います。」(日本語日本文学科)

「現在の、変化を推進する仕事において、大学時代の、逆境のチームを束ねる経験を通して身につけた、人を介して事を成す力がベースになっていると感じます。それは、学科の組織論、リーダーシップなどの授業や本からのインプットと、部活動の主将としての振る舞いとしてアウトプットできる機会が両方あったので、理論と実践をいったりきたりすることで身に付いたと感じています。」(経営学科)

「語学」コード

「語学」コードは、言語に関わらず大学で学んだ外国語について言及している2件(全体の5.1%)の回答に割り振られた。以下のように、具体的に海外とのコミュニケーションを伴う仕事で活かされているというコメントがあった。

「英語運用能力、欧米文化、スペイン語に関する入門知識は海外事業に従事する上で役立っています。特に英語は海外支店との日常的な文書、メールのやりとりで必須となっています。またリサーチ力、課題分析力、論理的な文章表現力は幅広い日々の業務遂行に役立っています。」(英語英米文学科)

「IT・データサイエンス」コード

「IT・データサイエンス」コードは、WordやExcelの使用方法や、プログラミング、統計学について言及している5件(全体の12.8%)の回答に割り振られた。「IT・データサイエンス」については、以下のように、活用の具体的な場面まではうかがえないものの、直接的に役に立っているというコメントがあった。

「統計学、PC知識が非常に役に立っている。統計学とプログラミングは基礎科目として授業化することをお勧めします。」(心理学科)

「情報のインストラクターのアルバイトで、ExcelやWordの使い方をしっかり教わったのが仕事で本当に役に立ちました。名前を失念してしまったのですが、女性の情報の先生でした。本当に感謝しています。」(政治学科)

「資格」コード

「資格」コードは、大学の資格課程内外を問わず、在学中に取得した資格について言及している2件(全体の5.1%)の回答に割り振られた。このうち1件は以下のように在学中に取得した資格が卒業後の仕事やその後にも影響を与えているというコメントであった。

「初めは単位のために取得した簿記検定が経理の仕事に繋がり、現在は税理士を目指し試験勉強の日々を過ごすことに繋がっています。」(経済学科)

もう1件は、在学中に資格を取得していればよかったという後悔をうかがわせるコメントであった。
「卒業後にFPや簿記の知識の大切さを知った。」(心理学科)

「人間関係」コード

「人間関係」コードは、ゼミ、部活動、サークル活動などで培われた人間関係について言及している4件(全体の10.3%)の回答に割り振られた。全件が、大学時代の人間関係が卒業後に活かされており、以下のように就職先の会社で学習院大学の先輩や後輩がおり相談がしやすい、卒業後の生活の心の支えとなっている、このような人間関係が財産になっているといったものであった。

「大学時代に築いた交友関係が現在も活かされていると感じます。」(経営学科)

「外国人留学生出身です。大学で学んだ専門知識と関わりのない仕事をしていますが、学習院というバックグラウンドと身につけた教養、そして学習院で作った人脈(面接対策セミナーのOBOG含め)は一生ものです。」(日本語日本文学科)

「経験」コード

「経験」コードは、特定の知識、能力、スキル等に言及してはいないが、大学時代に経験したことそのものが卒業後に活かしているという36件のコメント(全体の20.5%)に割り振られた。以下のように、何かの活動の経験が役立っているというコメントが見受けられた。

「何よりも学んだことは4年間たった一つのことにも情熱・時間を全て注いだ経験。これからの私の人生を通じて間違いなく唯一であるこの経験が私という人間の根幹を形成しているだけでなく、仕事や私事も含めて人生に起きた問題を解決していくための原動力となっています。」(経済学科)

「学習塾では2020年度から必修となるプログラミング、夏休みには自由研究で理科実験を行うため、大学(物理学科)での学習や実験の経験が生かされている。」(物理学科)

「現在は読書にかかわる仕事をしているため、多くの論文や古典を読み込んだ経験がいかせていると思います。」(日本語日本文学科)

その他

その他のコメントとしては、以下のような大学の社会的認知度や環境に関する意見が見受けられた。

「学習院での学びは全く役に立っていないが、学習院出身というブランドイメージで得をすることは多いし、誇りに思っている卒業生は多い。そのため、どうか学生選抜は今後も慎重に行い、大学の品格を落とさないで欲しい。また、キャリア支援が他大学と比較してとても弱いと感じる。」(法学科)

4. まとめ

4-1. 自由記述回答のまとめ

以上、各コードについて具体的な回答を見ながら、学習院大学での学びや経験が卒業後、どのように活用されているかを見てきた。概要としては以下のように集約できるだろう。

- ・専門の知識そのものが卒業後のキャリアに役立つかどうかは就いた職業によるものの、学びの過程において身につけた理解・思考力や、態度・姿勢は全般的に役立っているという回答が見受けられた。
- ・理解・思考力は特に論理的思考力や批判的思考力を指し、ゼミにおける活動やレポート作成などから身についたと感じている。
- ・態度・姿勢は自発的に学んだり挑戦したりする姿勢や、自らに余裕を持たせる意識などであり、大学生活における課題解決や取り組みの経験からその価値を実感し、身につけた様子が見えがえる。
- ・対人関係スキルはゼミや課外活動において身についたと感じられており、一部には学科の授業で学んだ理論を対人関係で実践していた卒業生も見受けられた。
- ・語学については仕事で活用しているというコメントのみであった。
- ・ゼミや課外活動の他、大学生活の中で培われた人間関係は、卒業後にも価値が見出されていた。
- ・大学生活の中で、ひとつの物事に多くの時間やエネルギーを注いだ経験や、ある物事に量をこなし、習熟した経験は、卒業後に活かされているというコメントが見受けられた。

4-2. 自由記述回答からみた学びの場としての学習院大学

前節までは、大学時代に学んだ内容と卒業後の活用のされ方について検討してきたが、ここでは自由記述回答の分析を通じて浮かび上がってきた本学の特徴と思われる点をまとめたい。

まず、本学の雰囲気について「おおらか」「ゆとりある」といったコメントが共通に見られた。これらの「おおらかさやゆとりのある雰囲気」は、「人を押し退けたり、いわゆる『マウンティング』のようなことをしない」「大学では、目標や考え方が似た人、全く違う人、多くの人に出会いました」といった形で実感されているようである。大学時代にこういった環境に身を置いたことが、人と関わる場面でのおおらかさや、対人スキルとしての余裕を身につけることにつながったというコメントが見受けられた。本学のワンキャンパスにおける学生生活では、課外活動を含めて多様な他者（学部を問わない友人、先輩や後輩、教員など）とのつながりを作る機会が常に身近にあると考えられ、これらの関係性の中で多くの学びがあったことがうかがえる。

授業科目で学んだ専門知識等に関しては、その知識が卒業後に活かされるかは進路による部分が大きいと言えるが、直接的にはなくとも教養として人間の幅を広げることで他者とのコミュニケーションに役立っているという側面もあった。

これに対して、授業を通じて養われた論理的思考力・批判的思考力などの能力面に言及すると、役に立っていないというコメントはなく、全てが活用できているとする内容であった。また、学習の過程で、多くのレポートに取り組んだり卒業論文のために調査や分析を重ねたりした経験は、卒業後の実務において役立っているというコメントが見受けられた。文章表現力や情報収集力、さらには課題作成のためのIT関連スキルについても、課題等にしっかり取り組むことで訓練され、卒業後に生きる能力となっていることがうかがえる。こういった将来的な意義までを見通して学ぶことで、卒業後も大学での学修成果を実感しやすい可能性が考えられる。

その他、自発的なチャレンジや粘り強い課題解決、ひとつの物事に打ち込む、といった時間を持てたことによって、大学時代が価値あるものとなったというコメントも見受けられた。ゼミや課外活動等における具体的な活動に言及したコメントも、自分なりの目標意識や情熱を持った取り組みがうかがえた。これらのことから、大学時代の活動が卒業後にも役立つ学びとして実感されるためには、漫然と、あるいは受動的に活動するのではなく、自発的な挑戦や追求の態度・姿勢が必要であるのかもしれない。

総合すると、自由記述回答のうち肯定的コメントからみる学習院大学の学びの場としての特長は、学生一人一人の挑戦や追求を受け止める懐として、おおらかでゆとりのある雰囲気を持つところである可能性が考えられるだろう。

■自由記述回答内容の整理手順

卒業生が回答したコメントの整理を行うにあたって、KH Coder (version : 3.alpha.13L, 2018) の機能 (形態素解析とコーディング機能) を用いた。KH Coder は「テキスト型 (文章型) データを統計的に分析するためのフリーソフトウェア」であり、抽出する特定の語を設定できることや、回答の内容をコーディングする際に網羅できることと、フリーソフトウェアであり費用の面で有用であることを理由として利用した。しかし、KH Coder は文中に含まれる「語」についての解析ソフトウェアであるため、その語が肯定的あるいは否定的に用いられているかなどの意味は判別できない。このことから、KH Coder の機能を用いつつ、分析者による確認と再コーディング、意味の判別を行うことで、整理の目的を達成できるようにした。具体的な手順は以下の通りである。

【コーディングの手順】

- ① KH Coder を用いて、形態素解析を行い、単語を網羅的に抽出する。
- ② 単語と内容を検討しながらコーディング・ルールを検討する。
- ③ KH Coder によるコーディングを実施する。
- ④ KH Coder によるコーディングの結果を、分析者が確認し、必要な場合に再コーディングを行う。同時に、そのコードについて、ポジティブ (活用できている)・ネガティブ (活用できていない)・その他 (〇〇を学べるようにしたほうがよいという大学への提案など) に意味の判別を行う。(最終コーディングの決定)
- ⑤ コーディングの差異を見ながら、コーディング・ルールを再検討する。
- ⑥ 再検討したコーディング・ルールでコーディングを実施する。
- ⑦ コーディング・ルールと最終的なコーディングの差異率の検討。

本年度は、昨年度に作成したコーディング・ルールをもとに②を行い、この際に「IT・データサイエンス」コードを追加した。

④において、KH Coder による網羅的なコーディング結果から、分析者による再コーディングを行ったのは、単語が含まれていても目的と合致しない使用の仕方である回答や、関連する単語を含まないがいずれかのコーディングと同様の内容に言及していると判断された回答があったためである。結果として、KH Coder によるコーディングから変更のなかったものの割合をコード採用率として計算したところ、全体の採用率は 90.0%であった (付録表 2)。再コーディングを行った後、その他を含むコードが何も振られなかった回答は 2 件であった。コードの種類別にコード採用率を見ると、最低が「経験」の 80.7%であり、最高は「語学」の 97.4%であった。

また、この再コーディングと同時に、ポジティブな内容、ネガティブな内容、あるいはその他の内容、のいずれに該当するか、分析者の判断により分類を行った。これは、質問項目は「どのような形で活かされていますか」であるが、実際の回答には、「〇〇はあまり活かされていない」といったものや、「〇〇を学べるカリキュラムにしてほしい」といったものなどが含まれており、これらの判別が必要であったためである。

また、このコーディングでは、一つの回答に複数のコードが振られる (一つの回答が複数のコードに該当する単語を同時に含む) 場合が多数存在するが、その意味の判断はコードごとに行った。

なお、⑤～⑦は、次年度以降の自由記述回答の整理に用いることを意図して、コーディング・ルールの妥当性を高めることを目的とした振り返りの作業である。

今回は、KH Coder による解析やコーディング後の意味内容の判断を行ったのは1名の分析者によるものである。本報告書に含まれる回答内容とコーディングや意味については、複数の人間による確認と合意を経ているが、すべての回答やコーディングについて複数人の確認を行うことには使用できるリソースの関係上限界がある。したがって、本報告の結果の信頼性や妥当性についても限界があるが、次年度以降も課題として、整理の方法の検討を進めていく予定である。

付録表1 頻出単語上位150語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	14	後輩	3	繋がる	2
大学	14	考える	3	見る	2
経験	13	考え方	3	戸惑う	2
仕事	13	行う	3	構築	2
学習	12	作る	3	行動	2
学ぶ	10	持つ	3	講義	2
感じる	10	自身	3	今後	2
自分	10	就職	3	仕組み	2
社会	10	出る	3	司	2
身	10	出身	3	思考	2
人	10	出来る	3	支援	2
知識	10	情報	3	支店	2
役立つ	10	政治	3	時代	2
現在	9	生かす	3	質問	2
関係	7	生きる	3	実験	2
活かす	6	先生	3	社外	2
資格	6	多く	3	塾	2
授業	6	伝える	3	書く	2
人生	6	日	3	少ない	2
多い	6	部活動	3	場	2
勉強	6	福祉	3	情勢	2
今	5	文科	3	触れる	2
施設	5	文章	3	積極	2
児童	5	方法	3	専門	2
取得	5	アルバイト	2	全く	2
人間	5	コミュニケーション	2	全体	2
卒業	5	サポート	2	組織	2
大いに	5	ステーション	2	対応	2
役に立つ	5	セミナー	2	大切	2
お客様	4	プログラミング	2	仲間	2
ゼミ	4	メール	2	直接	2
解決	4	レポート	2	通信	2
海外	4	意欲	2	程	2
学科	4	印象	2	統計	2
活きる	4	営業	2	特に	2
試験	4	演習	2	内定	2
生活	4	課題	2	日々	2
他者	4	会社	2	年	2
得る	4	学び	2	年間	2
能力	4	学問	2	納得	2
分析	4	勤める	2	非常	2
目指す	4	関わり	2	必修	2
力	4	関わり方	2	必要	2
おおらか	3	含める	2	付ける	2
英語	3	企業	2	物事	2
科目	3	基礎	2	物理	2
活動	3	機会	2	雰囲気	2
気	3	起きる	2	文書	2
教養	3	教わる	2	変化	2
業務	3	興味	2	簿記	2

付録表2 KH Coder によるコード採用率

コード名	知識	理解・思考力	態度・姿勢	対人関係スキル	語学	IT・データサイエンス	資格	人間関係	経験	全体
変更のなかった回答	32	36	32	36	38	36	36	37	33	316
全体の回答数	39									351(※)
コード採用率	82.1%	92.3%	82.1%	92.3%	97.4%	92.3%	92.3%	94.9%	84.6%	90.0%

※コード（その他を除く）の種類9つと回答数39件をかけた351を全体の一致率計算に用いた。